



# みどりの風

平成28年6月1日発行  
校報 第531号  
〔みどりの風 第74号〕  
練馬区立関町北小学校

## 奨くんのチューリップ

校長 大野 泰弘

先日の運動会には、多くのご来賓、保護者、ご家族の皆様にご来校いただき、子どもたちに温かいご声援や励ましのお言葉を賜りました。学校を代表して、改めて御礼を申し上げます。運動会を通して得られた達成感や一体感などを今後の学校生活に生かして欲しいと思っております。

さて、今月は運動会で燃えた心を少し穏やかにするべく、読書&ふれあい月間となっておりますが、ふれあい月間の趣旨に迫るものとして、かつて勤務していた学校で、地域の方から頂戴したお手紙があります。以下、その全文です。「可愛い新入生もご入学され、明るい緊張感の毎日をお過ごしのことと心からお喜び申し上げます。実は、突然のことで失礼とは思いましたが、御礼が申し上げたくて、厚かまし（お）便りさせていただきました。碑文谷教会の隣の花壇にきれいなお花を植えていらっしゃる方に…。その方が、チューリップの球根を植えているときでしょうか、私どもの娘と孫が母子で通りかかった折り、孫の奨が『奨君もやりたい！』とせがみ、ママを困らせていたとき、その方は、その孫のわがママを聞き入れてくださり、球根をいくつか植えさせてくださったそうです。その日の夕方、娘はとても喜んで、その出来事を私どもに報告してくれました。『普通なら、そんな自分勝手なわがままなことを…と思われても当然のことで、まさか聞いてくださるわけなどないのに、その方は、奨に球根を持たせてくださり、土を掘って、土の中に埋めてかぶせてくださったの！！ 優しい方で、有難くて感激しちゃったの！！』と…。

そして、何日か過ぎ、再び小学校の近（く）を通った際に、ふと学校の花壇を見ると、そこには『しょうくんのチューリップ』と書かれたプレートがあったとのこと。娘は、それを携帯電話のカメラで撮り、私たち夫婦にもその写真を送ってくれました。娘の二度目の感動が、間違いなく私たちにも伝わってきました。それからというもの、私たち家族は皆、小学校の近（く）を通るたびに（回り道をするのが幾度もありましたが…）、チューリップの芽が出る日、葉が出る日、茎の伸びる様子等々、今までの人生の中で、チューリップが咲く日をこれほど心待ちにしたことはなかったかも…と思われるほど、春が来るのが楽しみでした。まだかな、まだかな？？…と。

そして、すっかり春めいてきたある日、咲きました！！『しょうくんのチューリップ』が…。優しい、その方のお蔭でございます。放っておけば咲くはずもないのに、きっと、その方はここまで育ててくださったのでしょう。本当に有難うございました。孫の奨は「チューリップが、どのように咲くのか」を見守ることができました。表現は拙いのですが、「ボール（奨にとっては、球根がボールだったのです）を土の中に埋めておいたら、チューリップが咲いたの。奨君が埋めたんだよ！」とうれしそうに話していました。孫は小さいころからわりとお花が好きなお子の子のようです。たんぼぼも、さくらも、ひまわりも…。こんなに素敵な体験をさせていただいたのですから、きっとこれからもお花の大好きなお子に育つと思います。

その方は優しい心で、孫の気持ちを受け入れてくださり、感激いたしました。そして、チューリップが咲くまで待つこと、育てること、きれいに咲くように願うこと、その願いが叶った感動、感謝の心など、私ども夫婦、娘夫婦、孫に素晴らしいことをたくさんたくさんご教授くださいました。奨の心の芽を摘まないことまでも…。

今時、たった一人の通りすがりの子どもの気持ちを受け入れてくださり、貴重な経験をさせていただいた、その優しい方に対して、深く感謝の気持ちで一杯でございます。そして、心から御礼を申し上げたくて、下手な文章で失礼とは思いましたが、お便りさせていただきました。ぜひとも、その方にお伝えいただきたくお願い申し上げます。奨は、先生の学校に通える区域に居住していないのが残念ですが、きっと『大好きな小学校』の思い出として、心に残っていくものと思います。本当に有難うございました。心からの感謝の気持ちと御礼を申し上げます。』（平成21年7月）

幼い子どものふとした言葉を心に受け止め、その子の心の芽を摘まないよう、その子が喜ぶ姿を思い浮かべながら生命ある草花を大切に育てていく。こういう心配り、温かさが、相手が子どもであれ、人と人との心のふれあいを生み出すのであり、心の絆を深めていくことにつながるのではないかと思います。

こういう出会いや感動が、今年度の「ふれあい月間」の何気ない日常の中で生まれれば素晴らしいと思っています。このお話に登場する職員（学童擁護主事）の思いや行動は、様々な活動を通して子どもたちを日々支えてくださっている本校の保護者や地域の皆様への心の源流にある温かいお気持ちにも通じるものがあると感じています。

当時、この職員に手紙を読んでもらったとき、笑顔と共にその目には涙が浮かんでいました。「奨くんのチューリップ」は、その形はなくなっても、奨君やそのご家族、この職員の心の中でずっと咲き続けていることでしょう。このお手紙は、「教師としての在り方」、「心の絆」を教えてくれる教科書として、今も校長室の机の引き出しに大切にしまっております。